

# 天才アート

法人事務所  
〒612-0835 京都市伏見区桃山紅雪町162番地

〒605-0811 四条・新道アトリエ  
京都市東山区小松町130番地 元新道小学校内

<http://tensai-art.com>

特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構



「天才アート」とは、障害のある人の優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的な作品に対してネーミングしたものです。

## 京都のアール・ブリュット

- ◎ 天才アートミュージアム展2013予告……………2面
- ◎ 活動報告／青空美術館／  
京都コンサートホール作品展示……………3面
- ◎ トピックス／高田美貴個展……………3面
- ◎ ギャラリー／作品・作家紹介……………4～5面
- ◎ アトリエ点描／ボランテイア便り……………6面
- ◎ アトリエ訪問／アトリエとも・青谷学園 DO……………7面
- ◎ 書籍レビュー……………8面
- ◎ 季報掲載広告の募集／ボランテイア募集……………8面



「かりぐらしのアリエッティのハートハート」 高田美貴 画用紙・ペン・色鉛筆 380×540

# 天才アートミュージアム展2013

天才  
アート  
ミュージアム  
The TENSAI Art Museum Kyoto

2013年11月2日(土)～11月17日(日) 堀川御池ギャラリーA/B/C

開館時間：午前11時～午後6時 / 休館日：11月11日(月) / 入場無料

★シンポジウム：11月3日(日) 午後2時～4時30分 / 定員80名(先着順) / 入場無料

基調講演 甲南大学准教授 服部 正氏 / シンポジウム 服部正氏 と 主催関係者

主 催：NPO法人 障害者芸術推進研究機構 / 共 催：京都市・京都市教育委員会

後 援：京都新聞社会福祉事業団・京都市立総合支援学校長会 他

協賛出品：天才アートミュージアム・京都市ふしみ学園アトリエやっほう・青谷学園DO・アトリエとも・

京都市東山青少年活動センター・洛西ふれあいの里授産園・京都市立呉竹総合支援学校・

京都市立東総合支援学校・京都市立白河総合支援学校・個人 等

会 場：堀川御池ギャラリー 京都市中京区油小路通御池押油小路町 238-1 TEL075-255-9023

◆地下鉄東西線 二条城前駅下車徒歩3分 / 市バス (6路線) 堀川御池バス停より徒歩1分



堀川御池ギャラリー全景

上に障害のある人の知られざる表現能力や作品に興味関心をお持ちいただけるよう、永続的な支援や広報といった活動を更に進めていきたいと考えています。

本展は、京都でアート活動を展開している「アトリエやっほう」「東山青

昨年引き続き、第二回の『天才アートミュージアム展2013』を開催いたします。

特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構・天才アートミュージアムが発足して三年、昨年九月からは、京都市の統廃合学校の元新道小学校舎に常設アトリエを開設し、十八名の登録作家がそれぞれの創作活動に勤しみ、オリジナルティ溢れる作品が一点、また一点・・・と生み出されていきます。

近年、「アール・ブリュット」とか「アウトサイダーアート」、「ボーダレスアート」といった様々な呼称で紹介される絵画や陶芸作品が新聞をはじめとするメディアに取り上げられる機会も多くなり、各地でそれらの活発な活動を紹介する場面も増えてきたように思います。

当機構も、障害のある人の芸術活動を支援し、そのために必要な様々な事業や取組を推進研究することを目的として設立し、制作会を通じてその作品をモチーフとした商品の開発の取組などを進めています。これまで以上

## 会場設営・会場管理をお手伝いくださる ボランティアを募集しています

☆十八歳以上の方でアートに興味のある方(美大・芸大の学生、院生の方歓迎)

☆下記A/B/Cのうち都合のよい日程及び時間帯をお知らせください。

A. 展覧会準備期間 10月29日(火)～11月1日(金) 10時～18時

\* 作品額装作業の補助 / 展示作業等の補助

B. 展覧会期間中 11月2日(土)～11月17日(日)

\* 受付補助 / 会場管理 / 参観者誘導等

\* 時間帯 ①11時～14時 / ②13時～16時 / ③15時～18時

C. 会場撤去 11月18日(月) 9時30分～12時

\* 作品の取り外し / 梱包等

◆お問合せ・登録はHPより <<<http://tensai-art.com>>>

少年活動センター」「洛西ふれあいの里授産園」「アトリエとも」「青谷学園DO」所属作家の作品を一堂に展覧します。

またシンポジウムは、前回展に引き続いて、アール・ブリュットに関する著書などで知られる、甲南大学准教授の服部 正氏の基調講演と、当機構メンバーとのディスカッションを予定しています。

どうぞ多くの皆様にご来場をお待ちしています。



## 青空美術館

オープン



## 天才アート

地下鉄くいな橋駅東隣の京都市下水道工事現場で、期間限定の「青空美術館」がスタートしました。工事現場のイメージアップを図るとともに、多くの市民に作品を親しんでもらい、障碍のある人の芸術活動を支援するために教育委員会と上下水道局が連携し当機構が協力して実現しました。高さ2m、長さ約50mの囲い塀に天才アートミュージアムのアーティストの作品パネル十二点が展示されています。作品を入れ替えながら工事完成予定の二〇一五年三月まで展示予定です。この「青空美術館」は、今後、上下水道局の他の工事現場でも開設予定です。

## 京都コンサートホール

作品展示

「京都コンサートホールで初の展示」  
六月八日(土)午後、京都コンサートホールで開催された「ヒューマンふれあいコンサート」(主催・経糸の会)の会場であるメインホールのロビーで、天才アートミュージアムの作品十点を展示しました。このコンサートは、経糸の会が「しようがいのある人もない人も共にコンサートを楽しむ」ことを目的に毎年公演されていて今年で十四回目。今回は李広宏さんのソロコンサートでした。一千五百人の来場者は、青谷学園DOさんなどの作品と合わせて三十点の作品に熱心に見入っていました。



## トピックス

### 高田美貴 個展

五月三〇日(木)～六月四日(金)ギャラリー圓夢(えむ・京都市東山区圓徳院境内)にて初の個展を開催。同展は高田美貴さんの母上とギャラリーのオーナーのご縁で実現しました。小学生の時から現在までの作品、昨年度(二〇一二年)「障害者週間のポスター」内閣府優秀賞受賞作も含め約二〇点が展示されました。

五歳の子供さんがぜひ見に行きたいとのこと御家族そろって来ていただいた方をはじめ、「かわいい、綺麗、ずっと見ていたい」「見ていると元気が出る、元気がもらえる」「見ていると飽きない・・・」などたくさんの感想をいただきました。遠方の方や観光客の方も大勢来てくださり、また障碍のある子供さんとご家族の方には、「これからの励みになります」との言葉もいただきました。

高田美貴さんは、小学生の時はデッサンを中心に写実感のある水彩画を描いていましたが、中学生になってからは油性ペンで下書きをし、一二〇色もの色鉛筆を使い分けて独特な美しい色合いのデザイン感のある絵を描いています。「二歳四カ月から鉛筆を握り、絵を描く楽しさを覚え、現在は色彩での表現の楽しみも加わって、絵の進化の過程の中に心の成長の表現も見えていただける個展」(母上談)となりました。絵や色彩が今後どのように成長していくのかとても楽しみです。

京都新聞など、メディアを通して多くの市民の方におこしいいただき、会期中およそ三〇

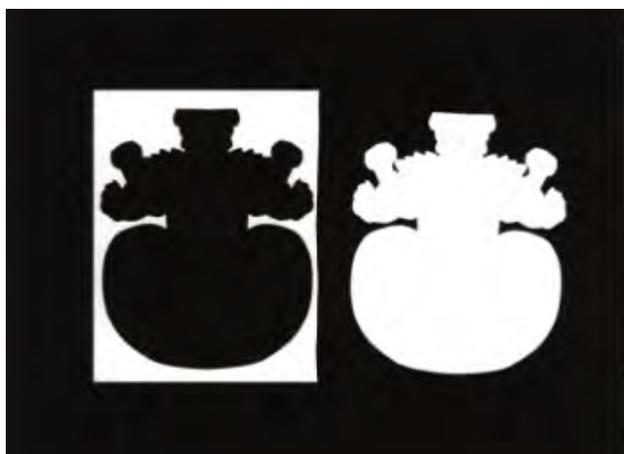


市長室にて、左から高田美貴さん、お母さん、門川大作市長

〇名以上の方が来場されました。皆様のご協力のもと大盛況に終わりました。  
またご多忙中にも関わらず、門川大作京都市長・藤田裕之副市長・生田義久教育長にも御来場いただきました。会期後、高田さんは市長室へご挨拶に伺い、作品を寄贈しました。



『ユウレイのいる風景』  
「彩夏の八百万のユウレイ」シリーズ  
平 彩夏 Ayaka Taira  
画用紙にアクリルガッシュ  
380×540



『ラデイッシュ』(Natsukiの切紙シリーズ)  
小寺菜月 Natsuki Kotera  
紙 297×210 (切紙を黒の台紙の上で撮影)



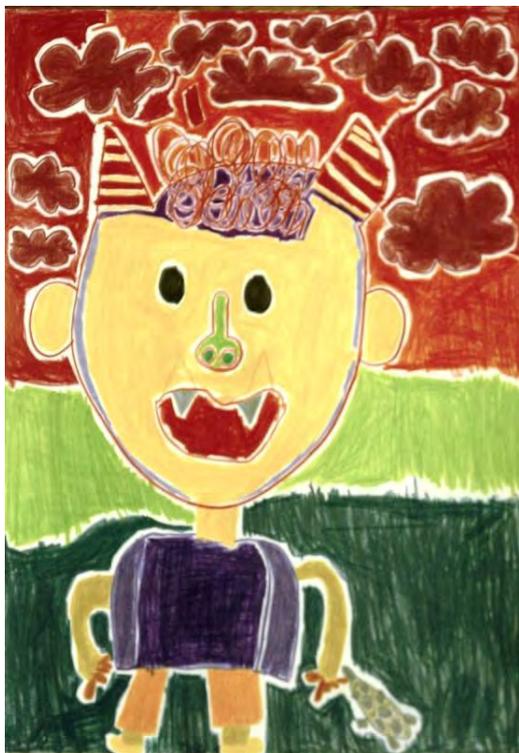
四条新道アトリエでの制作風景  
世界初『オリジナル倍速双六』制作中～  
小山怜志の「創造の泉」シリーズより



Mitsudaの『風神 雷神』 2枚1双 三津田一輝 Kazuki Mitsuda  
色画用紙にクレパス 380×540 (左右とも)



『人物と色彩のグラデーション』  
足立茉莉 Mari Adachi  
画用紙にクレパス・水彩 540×750



『オニ』～「NAOのスケッチファイル」より  
岸本 直也 Naoya Kishimoto  
紙に色鉛筆 297×210



「可菜恵の HANATABA」シリーズ『リボンと花束』  
服部 可菜恵 Kanae Hattori  
画用紙に色鉛筆 380×540



『月見』 「上田彩の歳時記」より  
上田 彩 Aya Ueda  
画用紙に色鉛筆 380×540



『花壇の景色』  
長村 駿 Takashi Osamura  
画用紙にペン・水彩 380×540

## 新道アトリエ 点描

梅雨の豪雨、夏の猛暑にも関わらず、アトリエに着いたアーティストたちは、スタッフとにこやかに挨拶を交わし、早速、各々自分で決めた机で制作を始めます。アトリエを開設してから約一年が経ち、それぞれのアーティストの個性的な表現に磨きがかかります。そして、何より楽しみなのが題材の変化です。丁寧で繊細な作品の仕上がりは、彼らの「こだわり」であり、また、直截的で大胆な表現は、彼らの外界を捉える独特な感覚から生まれるものであるかと思えますが、題材の広がりには、作家としての興味・関心や表現意欲と関係があります。大好きな仏像画の他にスタッフの肖像画を描いた人、いつも好きなキャラクターが絵に登場していたが、自分が主人公になって自分の体験を作品に表現するようになった人、自分の作品をプレゼントするために制作した人など、アーティストの興味の広がりや、視点の変化、作る動機がより豊かになったなどが感じられます。

理事 富田 千果子



## ボランティア 便り

今年の春、大学の構内で天才アートミュージアムの『季報』第一号を目にしました。アーティスト達の素敵な作品や活動内容などが掲載されていてとても興味深く、もともとアールブリュットに興味があった私は、すぐに応募し面接をして頂き、ボランティアスタッフとして活動に参加させて頂くこととなりました。

天才アートミュージアムでは現在月2回のペースでアトリエ会を開いています。絵を描く場所という前提を持ちながら、とても自由な雰囲気があり、アーティスト達は集中してのびのびと制作に取り組んでいます。ここで生み出される作品は、まるでアーティストの分身・魂の一部であるかのようなエネルギーを持っていて、私はいつも強く惹き付けられ、じっと眺めてしまいます。まるで目に見えない引力が働いているように、目が釘付けになり、その場から離れられなくなるのです。しかし、アーティスト達がここに集まるのはなぜだろう、という疑問も少しありました。とても良い環境ではありますが、アトリエ外でも制作しているのに、ここまで足を運ぶ理由は何なのだろうか。

その答えは、ここにアーティスト・スタッフ・保護者の方々を含め、見学、取材にこられる方々など、色々な人達が集まってくるという所にあるように思います。色々な人と関わることができる環境の中で創作し、誰かに見ってもらうこと、そして展覧会などを通して活動の幅を広げていくことは、アーティストにとって、一人だけでは得られない良い刺激

や自信を得ることにつながるのではないのでしょうか。そして作家だけでなく、ここに集う全ての人たちが、集まり関わることで、新しいアイデアや企画が生まれていくのではないかと思います。作品、アーティストを媒介にして人が集まる場、それが『天才アートミュージアム』であり、それゆえ可能性に満ちた場所なのではないかと今私は感じています。

精華大学美術学部生 名智敦子



### 《四条新道アトリエ&ギャラリーのボランティア募集》

障害のある人のアートを推進するために、作品を創る環境をととのえ、完成した作品をアーカイブ＝記録・保存し、作家別にポートフォリオ＝「作品集」を編集制作して、作家・作品を社会の皆様に広く紹介することを目指します。また、作品を例えば、Tシャツやバッグなどに商品デザイン化することも楽しい大切な活動です。

四条新道アトリエ；京都市東山区大和大路四条下る小松町 130 番地

当法人は、多くのボランティアさんの力を必要としています。  
皆様の積極的な参加をお待ちしています。（問合せは8頁に）

ボランティア[Volunteer]；「自発的にある事業に参加する人。特に社会事業活動に無報酬で参加する人。」（大辞林より）



## アトリエ訪問 アトリエとも

アトリエともは、京都市内の最中心部ともいえる中京区蛸薬師通烏丸東入のサンブラントンビルにあり、小規模作業所の形態で運営をされています。

一階は作品を展示するギャラリー兼喫茶室となっており、周辺はビジネス街でもありませんので、昼休みには勤めの人たちのランチ需要があります。また、観光客や買い物目的の人通りが結構あって、絶好のロケーションです。ギャラリーでは、作業所としての製品を販売されていて、手に取って確かめることができます。



アイデア満載で、しつかりと作り込みもされています。アーティストが制作し、職員の方がアイデアを出し、通所の人たちが製品作りの作業を進める、というようにして、それぞれ自分の才能を發揮し、自分の得意技を活かし、どのフロアも充実した雰囲気になっています。



帰り際に、ギャラリーの写真を撮らせていただきましたが、才能と個性あふれる作品群にあらためて魅入られ、カメラのシャッターを切りました。十一月の展覧会での再会が待ち遠しくなります。



## アトリエ訪問 青谷学園D.O

青谷学園D.Oは、昭和五七年設立の社会福祉法人青谷学園が運営されています。平成四年に知的障害者入所授産施設として開所され、その後通所部も併設されて、比較的早くからアートの活動も取り入れてこられました。平成十五年から画科のジュンイチさんとのコラボで『アートジャンクション』展覧会を開催されています。この間京都府等主催の『とっておきの芸術祭』で入賞作品も出されています。



の運営をされており、いずれも芸術系大学を卒業されてこの道を選んだとのことでした。白樫施設長のお話では、三年前に来てもらってから作品レベルがアップしました、とのことでした。そんなアトリエ環境の下で、作家の方々は、それぞれのテーマで自由に制作表現に集中できているように見受けました。アトリエも広いので大きな作品にも取り組みます。秋の天才アートミュージアム展で作品に出合えるのが楽しみです。



## 天才アート

季報

同じビルの三階がアトリエ、四階が作業室となっていて、七月に見学させていただいた時は、アトリエでは三人のアーティストが制作されていました。また、四階では六人の方が作業をしていました。作品をデザイン活用した製品に力を入れていて、種類も豊富、ア

京都府城陽市の南端の丘陵地を通る国道三〇九号線沿いにあり、鉄骨三階建ての大きな建物の三階にアトリエがあります。一・二階は入所・通所施設で清掃が行き届いた快適な空間です。

見学当日は、十三人の方が制作に励んでおられ、大きな作品の方は床にシートを敷いて制作されています。若い女性三人がアトリエ

## ブックレビュ 「天オアールな本」



ボーダレス・アールミュージアム  
NO-MA [企画]  
アサダワタル [編]  
『アール・ブリュット アート 日本』  
平凡社、2013年  
2,000円(税別)

ブリュットについて考えてみたいという人  
にはうってつけの入門書です。

もつとも、だからと言って本書は、アール・ブリュットの知識を効率よく得られる単なる解説書ではありません。アール・ブリュットがいかにかに“発見”され、誰によってどのように受け入れられたのかといった歴史と、日本における特殊な状況が語られることで、読者は、アール・ブリュットという概念自体が、時代や地域、立場などによって変わっていく可能性のあることを理解するでしょう。そして、いま/ここで、どのようにアール・ブリュットと関わり、どのようなアール・ブリュットを構想すべきか、ということを考えさせます。その意味で、本書は一種のワークブックにもなっています。

理事 イトウ ユウ



### 季報掲載広告のお願い

季報天オアールは、年4回の発行を予定しています。「天オアールミュージアム」の活動報告をはじめ、所属作家の作品紹介、アール・ブリュットに関する情報、各地の展覧会情報などを掲載していきます。発行部数は創刊号(平成二十五年三月発行)が三千部で、会員・協賛団体、美術館、ギャラリー、カフェ、芸術系大学、福祉関係学部のある大学、公共機関などに配布・配架をしています。

現在天オアールミュージアムの活動にご賛同くださる企業や団体の広告の募集を行

つています。ご協力をよろしくお願ひします。

### 広告募集中

- 年4回発行 毎号3千部予定
- 1枠10,000円/年間4回各号に掲載
- 最終ページ(後ろ表紙)にロゴを掲載

お問合せ・お申込みは  
[info@tensai-art.com](mailto:info@tensai-art.com)へ

### 《ボランティア募集中》

1. 『天オアートミュージアム展 2013』のボランティア
  - A ; 会場設営・展示作業などの補助
  - B ; 会期中の受付・会場管理などの補助
  - C ; 作品撤去作業・梱包などの補助
2. 四条新道アトリエ&ギャラリーのボランティア
  - ① 広報誌・季報などの企画・編集
  - ② 作品のデザイン化・商品化などの企画
  - ③ その他、得意分野を生かした活動など

■お問合せ・申込はHPより; <http://tensai-art.com>

## 季報 天オアート

東京国立近代美術館主任研究員の保坂健二郎や、精神科医の斎藤環、文化人類学者の中沢新一や、滋賀県で福祉事業に携わってきた田端一恵、「NO-MA」アートディレクターのはたよし(こと)といった様々な分野の第一人者が、彼ら/彼女らの深く関わってきたアール・ブリュットについて多角的に論じた論集。

学術専門書ではなく、事項や人名の丁寧な脚注も付されているので、これからアール・

画材・額縁  
**画笈堂**  
京都・河原町五条

創業1908年  
吉村建設工業(株)  
075-802-1360  
Yoshimura Construction co., Ltd.

各種印刷/アニメーション仕上げ  
**福祉工房 P&P**

**Kuretake**  
株式会社 呉竹  
<http://www.kuretake.co.jp/>

一級建築士事務所  
町家・古民家再生/マンション改修  
**(株)共立ホーム**  
エンジニアリング  
06(6788)5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

天オアートミュージアム発足から三年、登録作家の創作活動も、当機構のスタッフの活動も共に手探りながら一歩、また一歩・と歩を進め、様々な試み・取り組みを行ってきました。そして十一月に第二回展覧会を控え、準備に心躍る日々です。初めてアール・ブリュットという言葉を知った日のことを、初めてその作品を眼にした日のことを、季報編集のたびに思い起こします。その時受けた衝撃や感動、そしてやまぬ興奮を想います。展覧会は、そのような場でもあると思います。あの日の私のように思いがけず作品に出遭い、何かを感覚して不意に動き出し・・・そんな偶然が生まれるかもしれない、展覧会を心待ちにしたい。

〈編集画像処理 高橋ちさと(ウエブデザイナー) / 編集・構成 植村美樹(ボランティア)〉

